石工養成 来春から講座

宇都宮 大谷石「匠」の技伝承へ

匠の技術で石材の加工や施工を行う石工。大谷石の産地・宇都宮市で石工の技を伝承する「大谷アカデミー」が来春創設される。全国に点在する大谷石の歴史的建造物は多くが築60年が過ぎ、劣化も進んでいるため、石工の高齢化や後継者不足に危機感を抱いた大谷地区の石材業者らが立ち上げる。

震災以降、安全性に対する要望が高まり、彫刻などの熟練した技術を持つ石工の養成は、大谷石建造物の維持補修に欠かせない課題だった。一方で、デザイン性を求められるなど、顧客ニーズも幅広さを増している。

アカデミーは来年4月に開講し、講座は半年間。校長に宇都宮大名誉教授の藤本信義さん（建築学）、技術指導部長に大谷石彫刻家の渡辺哲夫さんが就く。大谷石の歴史や図面の見方、施工方法などの座学に加え、面磨きや彫刻、敷石などの実技を学ぶ。

事務局長を務める同市の石材業者「大谷石産業」の飯村淳営業部長によると、彫刻や施工を請け負える熟練の石工はわずか数人にまで減っているという。

飯村部長は「歴史的建造物を解体するのではなく、維持保存して後世に残すために石工は必要。最近は海外でも大谷石の引き合いが増え、新しいニーズに応える意味でも熟練の技を持つ石工が求められている」とアカデミー創設の狙いを話した。

大谷石建造物の傑作とされた帝国ホテルの彫刻復元にも携わった渡辺さんは「いま取り組まないと、大谷石の職人技は途絶えてしまう」と危機感を募らす一方、「大谷石は世界に通用する最高級の石。アカデミーで大谷独特の技術を継承したい」と意気込んでいる。

アカデミーの受講者は12日から募集し、定員は10人程度。

（石崎倫子）

大谷石を使った宇都宮聖ヨハネ教会＝11日午前、宇都宮市内